

# どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

3月号(NO30)通巻 180号

2021年3月10日(水)発行(毎月10日)

## 【農暦】農作業が楽しい季節の到来である！

○もうすぐ春ですね。陽射しが眩しい。庭に花が、芽吹き of 勢いを感じる。5日は土の中の虫が動き出すと謂う啓蟄である。オイヌノフグリ、ナズナ、ホトケノザなどが畑の畦に、春が勢いを増し始まっている。茨城のコロナの緊急事態宣言は解除されたが、一都三県は7日期限から2週間の延期になった。相変わらずの後手後手感は否めない。コロナ収束の目途は不透明のままである。巣ごもりから抜け出したい心境は募るばかりである。

○鯛は頭から腐ると云うが、三流政治の問題の噴出は止まらない。菅総理の携帯料金低減政策は長男の就職から始まっていたと思うと、がっかりで失望の極みである。NHKのMCなどの降板が菅総理、二階幹事長の不快から？と聞くと、コロナもだが民主主義の先行きも心配になる。村度が蔓延した社会にはいけない。

○中東の火種が、香港、ミャンマーなど民主主義が問われ、試されている。日本はミャンマーの政府、軍とも繋がりがあると云う。良い役割を担って欲しいと思うが、無理がありそうである。温暖化対策もあと10年が分岐点と言われる。争っている状況にはないのである。地球が壊れてしまう。

○東京オリ・パラリンピックの組織委員会が再スタートしたが、コロナ収束不透明、ワクチン接種も諸外国に比べ遅れている。ボランティアに続き、聖火ランナーの辞退が続いている。本当にやれるのか、やっっているのか、心配される。社会状況は不安と不信のままである。

○畑の周辺の荒れはかなり激しい。篠だけ刈りなど繰り返し頑張ってきたが、まだまだである。もうひとふた頑張りしなくてはならない。荒れた畑を元に戻し維持するには相当な労力がある。小さく手の掛からない菜園づくりを、あれこれ検討しながら進めたいと思う。目指すは楽しく実りある菜園である。

○ブルーベリー、キューイの剪定をやっと完了した。ペレット状の鶏糞の施肥をした。もうそろそろ、ジャガ芋の植えの時期である。芽吹きが始まっている。農作業が楽しい季節の到来である。春耕など畑の整備も進めたいと思っている。(了)

【楽農】<畑>篠だけ枯草刈り、ブルーベリー、キューイの剪定継続。鶏糞の施肥。

【楽市】イベントなど；男女共同参画協議会解散総会(22日)共生の会(4日)詩吟の例会、川柳の例会は中止継続。



<クリスマスローズ>  
家の庭で。6日撮影



<梅の花一輪>6日撮影

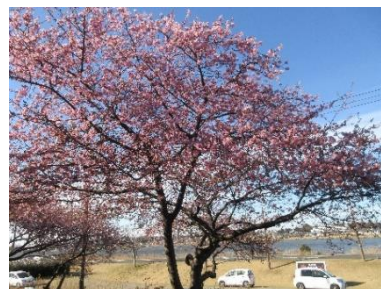
**【つぶやき=Tweet】最近「苦楽同源」だと思ふことが多い！**

○8日は国際女性デーである。朝日にはThink Gender（ジェンダーを考える）が特集されていた。川上未映子の短編小説「刺繡糸」と上野千鶴子の記事など6面に亘っていた。さらに、“未来は勝手に進まない、進めて来た人たちがいる。”と“私達は選択的夫婦別姓に賛成します”の見出しの全面広告が1面ずつ載っていた。笠間男女共同参画協議会の解散総会が22日にあったばかりであり、残念に思っていたので、この記事には驚いた。また嬉しかった。森発言・辞任以来にジェンダーフリーが話題になっていたのも、良い流れが続けばと思っていたので、日本の社会に良い刺激になると思った。

○この記事の中に、コロナ禍で、DV相談件数1,5倍。女性の非正規労働者50万人減、家事時間が増えた女性33,0%、女性の自殺934人増（女性934人男性14,052人で26人減）とあった。やはり弱い立場に置かれている女性により厳しいものになっていたのである。コロナ禍は弱者により過酷に働くと思っていたが、この数字が証明している。

○コロナ禍もあるかも知れないが、最近元気がない。楽しそうに見えない。と言われ、確かにと思う。そんな時、手帳に挟まっていた手製の名刺を見た。使う機会が少なくなっていたが、裏側を見ると、

「最近、『苦楽同源』だと思ふことが多い。“苦を克服すれば楽が来る。楽を貪れば苦が来る”のことで、医食同源を模した私の造語である。仏教では、似たような意味の“苦楽一如”がある。苦しみと楽しみは二つであって一つ、一つであって二つだと謂う。少し違う。自己（人生）肯定感につながる言葉である。“土楽”の日々は、苦楽同源の日々である。共感・共有を求めて行きたいと思う。(虎)」とあった。



＜河津桜＞散歩ウォーキングで。24日撮影

○今までは、共感・共有の関係が多くあったように思う。この土楽だよりも周りの人と、こんな菜園生活しているよ、したいよ、から、より良い人生、社会へといった問題意識の共有共感があったと思う。コロナ禍も、ジェネレーションギャップもあるかも知れないが、今の社会は問題意識を共有した活動が難しくなっているような気がする。それが元気がない主因かも知れない。“土楽”がボケ防止だったら寂しいものがある。

○森七菜さんが番組ナビゲーターした「2030 未来への分岐点 (2)「飽食の悪夢、水・食料クライシス〜」(土楽2月号)の怖い映像、怖いデータにショックを受けた。このクライシスの回避の処方箋になりそうな本を探していたら見つかった。“人新世の「資本論」” 斎藤幸平著である。昨年9月初版で既に7刷である。問題意識の共有共感が持てたらと、興味深く読み進めている。このままだと地球は壊れてしまうと思うから。(了)

○断捨離考：資料の整理少々、通常廃棄のみ。

**【後記】芽吹きが勢いが、春は直ぐそこに！**

【HP；kogure農場に転載しています】

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com